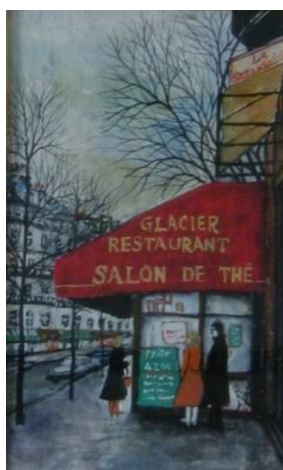


第164号

瓦版 えくれしあ

～ 集いの場 ～



目次

1. フィリピン人の結婚を巡る問題から
～ 結婚紹介事業モデル??? 人身取引 ～
2. 新聞記事から
介護に外国人 待遇の改善が最優先だ
外国人技能実習生、異例の過労死認定 残業12.2時間半
3. 美術館情報 特別展「古代ギリシャ -時空を超えた旅-」
世界遺産 ポンペイの壁画展
タイム・トラベル 美術で知るフィリピン
4. ケラメイコス 瑠璃の勾玉
5. 本の紹介 「福音の実り 互いに大切にしようこと」本田哲郎対談集
6. 今月の言葉

フィリピン人の結婚を巡る問題から ～ 結婚紹介事業モデル??? 人身取引 ～

フィリピン人と日本人との離婚には、在留資格の問題から様々な不利益がフィリピン人に発生します。結婚して来日すると「日本人の配偶者等」という在留資格で6か月なり1年の在留が認められ、以後更新していくこととなります。5年程度円満な結婚生活を送ると「永住者」という在留資格に変更することができます。一旦変更してしまえば在留期限は無期限となり日本で生活することに問題は無くなります。しかし「永住者」の資格を得る前に離婚したり、配偶者が亡くなると、現在の在留資格「日本人の配偶者等」での更新が出来なくなります。日本人との間に生まれた子供を自分が養育するか、相手が養育していても養育費を支払ってあげれば「定住者」という資格に変更することができますが、そうでなければ更新期限までに出国する必要があります。幾ら円満で幸せな生活を送っていた人であっても偽装結婚で来ていた人であっても同列に扱われてしまうのを見ると可哀想な気もしますがどこかに線を引かなければいけないのもやむを得ないことかもしれません。

フィリピン人と日本人の結婚を巡るビジネスモデルには合法的なものと非合法的なものがあり、後者の代表が当事者全てが同意している偽装結婚です。しかし違法なのか合法的なのか微妙なところで人身取引と考えられるものもあります。その事業モデルは、仲介者が日本人に対して、「フィリピン人と結婚し、相手が日本に来て働きだすと給料の半分をあなたに渡すと言っている。」と勧誘して仲介料を取っている場合です。当然、フィリピン人に対してはこうしたことは伏せて、お見合相手の紹介をすると偽るものです。こうした裏取引が行なわれていると知らずに、日本に来て、仕事を始めると「給料の半分を渡すように。」と言われるとびっくりしトラブルとなります。しかし同じ屋根の下で生活を共にしているので生活費の一部として渡すことに納得し、いくら渡

すかの話合となります。しかし日本人がその額に不満があれば、在留資格の更新を盾にとって「給料の半分よこさなければ在留資格の更新にサインしない。」とか「離婚する。」と言われたらフィリピン人のお嫁さんは愛想を尽かして帰国するか、嫌々ながらも日本で始めた生活を維持するため支払に応じるかの選択を迫られることとなります。日本人の旦那さんの気持ちはよく分かりませんが、フィリピン人女性をお金を稼いでくるペット感覚で見ているとしか思えません。邪魔になれば離婚して追い返してしまい、次のペットを見つけなければいけないだけの話です。しかしこれがフィリピン人のお嫁さんにしてみれば、帰国しても仕事を見つけることは難しく、また離婚の法律が無い場合、次に結婚しようとするれば、結婚無効の裁判を起す必要が生じます。その費用は80万円程度かかるそうです。もてあそばれた結果、大きな費用負担まで背負わされて帰国することとなります。どれだけの人がこうした憂き目にあっているか分かりませんが少なくはないでしょう。

先日3名のフィリピン人と会いました。みんな技能実習生として同じ時期に同じ会社で働いていた友だち同士でした。3人とも知り合った日本人と結婚して来日しています。2人はどのような経緯で日本人と知り合ったのか聞きませんでした。子供も得て幸せな結婚生活を送っています。しかし一名は先のビジネスモデルの蜘蛛の巣に絡め取られた人でした。3人と会った日は、彼女の主人と仲介した日本人(妻がフィリピン人)との話し合いを持った場でした。彼女の事を心配して駆けつけてきたものでした。この結婚の仲介をしたフィリピン人の妻がタガログ語で彼女たちに話したことの中に「この結婚は最初からお金の話しがされていた。」と言っていたとのことでした。当然、離婚を突きつけられたフィリピン人の知らないところでそうした取り決めがされています。彼女も給料の半分以上を渡すように言われた時、主人から仲介してくれた人とそのような約束になっていると言われたことと符合します。

相手が言う離婚理由は二つトラブルがあったとのこと。一つは給料の半分以上を渡すことを巡って、あと一つは最近のことで彼女が買い物するとき籠に物を投げ入れたからと言うものでした。家を出る前の口論の最後に「家から出て行け。出て行けば在留資格の更新をする。」と言われていました。話し合いの場でも、「離婚届にサインすれば在留資格更新に協力する。」と言っています。「サインするだけでいい。市役所には出さないで信用してもらいたい。」と言いますが、よく分からない提案です。こちらとしては、「些細な原因でしかないのに元の状態に戻り在留資格を更新してもらいたい。離婚するのならフィリピンでの裁判費用の80万円を支払って貰いたい。」と言うものですが、主人は「離婚しない。借金がありそんなものは支払えない。」との一点張りで話し合いは物別れとなりました。

こうした相手をだまして結婚させ、来日すると在留資格更新を人質にとって金銭を要求する行為は人身取引に該当するのではないかと考えられます。明確な証拠が残っている訳でもないし、善意でお見合い結婚の仲介をただけと言われればそれまでです。JFCの問題でも善意を装った、法律すれすれのところで暗躍する人達は少なくありませんし、フィリピンの友人たちのために善意から結婚相手を紹介する人達も少なくないため、結婚して子供がいない人達には「早く子供をつくれ。」としか言いようがありませんが、相談に来た女性の主人たちのようにビジネスとして考えている人達は当然子供を造ることは拒否しています。この問題で困っているとの話は時々聞きますがそれ以上進展したことはありません。その理由は、フィリピン人はうわさ好きなのでこの問題が広まるのが怖いからと言うものです。こうしたビジネスモデルを無くすためには、離婚を言われたら、当然女性側に非が無い場合ですが、結婚無効の裁判費用を支払わせる裁判をその都度起すことで、共謀者側にビジネスモデルとして危険が大きいことを、また被害者にはこうした裁判を起せることや支援する人たちがいることを情報として知ってもらうことかもしれません。

ちなみに、人身取引対策に関する取組について平成28年5月付けの官邸HP情報を見ると、人身取引議定書第3条に「人身取引」とは、搾取の目的で、暴力その他の形態の強制力による脅迫若しくはその行使、誘拐、詐欺、欺もう、権力の濫用若しくはぜい弱な立場に乗ずること又は他の者を支配下に置く者の同意を得る目的で行われる金銭若しくは利益の授受の手段を用いて、

人を獲得し、輸送し、引き渡し、蔵匿し、又は収受することをいう。搾取には、少なくとも、他の者を売春させて搾取することその他の形態の性的搾取、強制的な労働若しくは役務の提供、奴隷化若しくはこれに類する行為、隷属又は臓器の摘出を含める。」と定義されており、「人身取引という行為には、人の「売買」に限らず、搾取の目的で、被害者を騙したり、弱い立場にあることにつけ込んだりして被害者を支配下に置くなどの行為も含まれ、暴力、脅迫、詐欺等の手段が用いられた場合には、たとえ被害者が搾取に同意していたとしても、これに該当する可能性がある。」と説明されています。在留資格更新を金銭取得の目的とした結婚も該当してもおかしくないと思います。ただ裁判を起して勝てる可能性が有るのか、弁護士費用を含めた額で決着できなければ、「苦多くして益少なし。」となります。裁判で在留資格の1年延長してもらい。その間にしっかり働いて貯金をしながら、まともな相手を探すのが良いかもしれません。労働者不足から、新規の外国人の導入よりも、日本の生活になじみ、日本語もできるこうした人たちの活用の方がメリットは大きいかもしれません。

新聞記事から

介護に外国人 待遇の改善が最優先だ

信濃毎日新聞 信毎WEB（10月24日）

介護の現場で働く外国人を大幅に増やすことにつながる法案が衆院法務委員会で可決された。介護現場の人手不足は深刻化している。だからといって安易に外国人に頼る発想には問題が多い。

人口の多い団塊の世代は9年後の2025年に75歳以上になる。要介護認定を受ける人は今より3割以上増え、604万人になると推計される。介護職は38万人不足するという。

介護職の不足と高齢化の最大の原因は、待遇が悪く、若い人材が集まりにくいことだ。

平均月給は22万円で、全産業平均より10万円以上安く、離職率も高い。政府は「1億総活躍プラン」で介護職の賃金を引き上げるとしているが、月平均で1万円増と小幅だ。これでは担い手増はさほど望めない。ならば外国人で補えばいいというのでは、待遇改善を妨げることになりかねない。

今回の主な担い手増対策は、外国人技能実習制度の職種に「介護」を追加することだ。そこには矛盾がある。

この制度は1993年に導入された。開発途上国などの労働者が最長3年、日本で働いて技術を習得し、母国の発展に役立てることを目的に掲げる。

政府は介護職の追加についても「高齢化が進むアジア各国のニーズに応えるため」と説明する。こじつけではないか。

制度は製造業などの現場で安い労働力を確保する手段として利用されている実態がある。

働く環境も悪い。厚生労働省が一昨年、約4千の受け入れ先を調べると、7割以上で労働時間や安全基準などに関する法令違反があった。ことし8月にはフィリピン人の実習生が長時間労働による過労死で労災認定されてもいる。

介護職の実習生として来日しても、同様の状況に置かれる心配が消えない。法案では不正監視機関を設置し、受け入れ団体や企業を立ち入り調査するとしているが、全国に散らばる受け入れ先を把握しきれぬのだろうか。

受け入れ先に不満があっても働く場所を変更できない。受け入れ先の都合で強制的に帰国させることができる…。こうした問題も法案では解消されていない。

高齢者と適切なコミュニケーションを取ることが重要な介護を、外国人実習生に担わせることにも疑問がある。

優先すべきは介護職の待遇の大幅な改善だ。外国人実習生をその場しのぎに使ってはならない。

外国人技能実習生、異例の過労死認定 残業 1 2 2 時間半

朝日新聞デジタル 10月15日(土)23時43分配信

来日前的ジョーイさん =

2008年12月、友人提供



建設現場や工場などで働く外国人技能実習生が増え続ける中、1人のフィリピン人男性の死が長時間労働による過労死と認定された。厚生労働省によると、統計を始めた2011年度以降、昨年度まで認定はなく異例のことだ。技能実習生の労働災害は年々増加。国会では待遇を改善するための法案が審議されている。

ジョーイ・トクナンさんは、ルソン島北部の山岳地帯で生活する少数民族の出身。妻レミーさん(28)と、娘グワイネットちゃん(5)ら家族を養うために11年に来日した。岐阜県の鋳造会社で、鉄を切断したり、金属を流し込む型に薬品を塗ったりする作業を担当していた。14年4月、従業員寮で心疾患のため、27歳で亡くなった。帰国まで残り3カ月のことだった。

最低賃金はもらっていたが、稼いだほとんどを毎月、フィリピンに送金。離れて暮らす娘とテレビ電話で話すことを楽しみにしていた。「リサイクルショップに娘のお土産を買いにいくなだ」。前日、そう同僚に話していたという。

岐阜労働基準監督署によると、1カ月に78時間半～122時間半の時間外労働をしていたとされる。労基署は過労死の可能性が高いと判断。昨年、遺族に労災申請手続きの書類を送った。結婚の証明などを添えてレミーさんが申請し、今年8月に労災認定された。一時金として300万円、毎年約200万円の遺族年金が支給されるという。

【参考】

技能実習生死亡事故

年度	合計	中国	ベトナム	フィリピン	インドネシア	タイ	その他
2008年	34	22	4	2	4	1	1
2009年	27	21	3	2	1		
2010年	24	18	1	2	2	1	
2011年	20	14	2	1	1		2
2012年	21	17	2		2		
2013年	27	13	7	2	2	2	1
2014年	34	17	8	1	5	1	2
2014年12月 技能実習生数	167,626	100,093	34,039	12,721	12,222	4,923	3,628

2014年死亡原因

労災	通災	自殺	体調不良	事故			病気	その他
				交通事故	水難	その他		
5	3	5	6	3	7	1	2	2

体調不良は就寝中の死亡に係るものです。上記のジョーイさんもこの中に含まれており、「出勤時刻に現れなかったため宿舎を調べたところ倒れているのを発見、応答が無かったため病院に搬送したが、意識不明のまま死亡が確認。」と書かれています。2014年4月には同様の文面でベトナム人2名も死亡しています。ちなみに2013年の体調不良は10名。

【美術館情報】

特別展「古代ギリシャ -時空を超えた旅-」

国内史上最大級のギリシャ展、奇跡の開催！全 325 件、9 割以上が日本初公開。

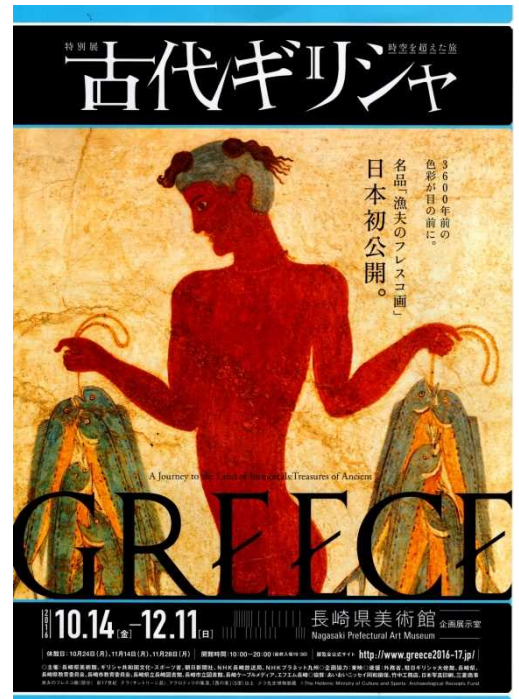
場所 長崎県美術館 長崎市出島町 2-1 HP <http://www.greece2016-17.jp/>
 会期 2016 年 10 月 14 日（金）～ 2016 年 12 月 11 日（日）

神戸市立博物館 2016 年 12 月 23 日（金・祝）～ 2017 年 4 月 2 日（日）

古代ギリシャには、時代や地域によりさまざまな美術が花開きました。その中心は一貫して神々と人間の姿と物語でした。大理石を削って作った小さなキュクラデス偶像、幾何学様式の壺絵からマケドニアの美しい金製品、等身大のヘレニズムの神像まで、歴史の変遷とともに見事なまでの多様性を目にすることができます。本展はギリシャ国内 40 か所以上の国立博物館群から厳選された、300 件を超える古代ギリシャ時代の貴重な作品を展示する、日本でかつてない規模での試みです。青きエーゲ海の美しい島々からはじまるギリシャ最古のエーゲ海文明からヘレニズム、そしてローマ時代まで、西洋文化の源である古代ギリシャの黎明から最盛期に至るその壮大な歴史の流れを総合的に紹介します。

時空を超えた旅。

古代ギリシャは驚くほどに変化に富んだ世界でした。時代により、地域により、さまざまに異なった美術が花開きました。今日の西洋文化の原点となった古代ギリシャ世界。その源ともいえるエーゲ海文明からギリシャ本土のアルカイック時代、クラシック時代、アレクサンドロス大王のマケドニア、ヘレニズム時代、そしてローマ時代までを「時空を超えた旅」と見立てて紹介します。



315 奇跡の開催!!
 日帰り 史上最大級 特別展
古代ギリシャ展
 時空を超えた旅
 究極の美 神戸必見
 大満足! 3時間30分
 日本初公開 黄金の輝き
 290点
 今がチャンス!!
9,780円 税込
 小人3,000円割引
 屋食弁当付
 12月23日 12月24日 12月25日 12月27日 12月28日
 1月5日 1月7日 1月9日 1月13日
 出発日
 12月24日 12月25日 12月27日 12月28日 1月5日 1月7日 1月9日 1月13日
 出発時間
 ●広島駐車場7:00 ●古市7:05 ●不動院7:25 ●広島駅8:00
 旅行代金は「古代ギリシャ展」1,500円などの車料無料で含まれております。
 個人旅行「気分」でお楽しみください。安心の添乗員がご案内します

究極に美しい。

キュクラデス文明のシンプルかつ美しく謎めいた像、クレタ島やテラ（サントリーニ島）の豊かで開放的な海洋文明。幾何学様式の壺絵や人間をより自然に表現するアルカイック時代の彫刻。そしてクラシック期には「人間」を尺度の基準とした精緻なプロポーションを持つ理想美が追求されました。その後、アレクサンドロス大王がもたらしたマケドニア王国の洗練された宮廷美術は、やがて人間味に溢れるヘレニズム文化へと花開き、ギリシャの美はローマへと継承されていくのです。

神話は生きている。

古代ギリシャという多神教世界にもスポットを当てます。たくさんの神々がそれぞれの自然現象や領域を司っていました。ある時は人間を守護し、ある時は罰する神々に対し、人々は折々に宗教儀礼を捧げていました。そうした儀礼や死生観は、実は多神教の世界に生きる日本人にこそ理解しやすいのかもしれませんが。遠いようで近い、古代ギリシャの神々と人間の関わりを紹介します。

日伊国交樹立150周年記念

世界遺産 ポンペイの壁画展



場所：兵庫県立美術館

会期：平成28年10月15日～12月25日

http://www.artm.pref.hyogo.jp/exhibition/t_1610/detail.html

光あふれる地中海に面し、古代より風光明媚の地として知られた南イタリアのポンペイ。西暦79年、街の北側にあるヴェスヴィオ火山の噴火により、悲劇的な終焉を迎えます。1748年から発掘が始まり、古代都市の姿が徐々に明らかになりました。遺物の中でもとくに人々を驚かせたのは、色鮮やかな壁画の数々です。火山灰が乾燥剤に似た役割を果たしたことにより、奇跡的に保存されました。

本展では、世界遺産に指定されたポンペイとその近郊の遺跡から出土した壁画を、描かれた主題ごとに紹介します。住宅や公共建築など、さまざまな建造物を美しい絵画で飾り、人生を謳歌した古代ローマの豊かな暮らしを追体験できる機会となります。



【構成】

第 章 建築と風景

第 章 日常の生活

第 章 神話

第 章 神々と信仰

日本・フィリピン国交正常化60周年記念 タイム・トラベル 美術で知るフィリピン



福岡アジア美術館

福岡県福岡市博多区下川端町3-1 リバレイ
ンセンタービル7/8F

2016年8月25日(木)～12月25日(日)

フィリピンがまだフィリピンと呼ばれていなかった昔、アス・マンガとバラヌグンの兄弟は魔法の船に乗って父親をさがす旅に出た……。ブレンダ・ファハルドが描くこのおとぎ話のような作品から、今回のタイム・トラベルは始まります。この島々で暮らす海の民、山の民、そして海を越えてやってきた異国の者たち。それらの物語が複雑に絡みあいながら、フィリピンの歴史は、その後、近代から現代へ突入していくのです。日本とおなじく「島」に生きる人々の姿を追いかけていきます。

ケラメイコス

瑠璃の勾玉

島根県に旅行するとメノウで出来た勾玉などがお土産として売られています。綺麗な色艶に心を引かれお土産に購入する人は多いでしょう。勾玉は日本人にとってなじみの深いもので、いろいろ形を変えて使用されています。島根県は玉造の地名に残るように古代から出雲石による勾玉



の産地として有名なところ。ヒスイは新潟県の糸魚川上流の長者が原遺跡が供給センターとなっていたようです。縄文時代から古墳時代まで延々と材質や大小問わず、様々な形のものが全国で造られてきています。ヤフオクに古い時代のものが出てくるのを眺めているうちに関心も強くなり調べてみようとすると思わずと意外と文献も写真集もないのにびっくりしました。見ているうちに関心が募り欲しくなりますがなかなか気に入ったものは手が出ないと思いつつ白っぽいヒスイのモノを手には入れましたがやはり濃い緑色のヒスイ製のものが欲しいと思って眺めていると



ガラス製のものが時々出てきており、しかも瑠璃色のものには触手が動いてしまいました。大体の相場と言うものはあってもその時その時でかなり大きな差もあります。たまたま予算の範囲内で落ちたのがこの勾玉でした。気泡が入っているからかそれともタイミングの問題だったのかもかもしれません。表面のカセも少ないのでいいのですが、5.25センチと大きめなのでお守り代わりにするには嵩張るし、ガラス製のため破損の危険性も少なく無いので眺めて楽しんでます。何の形を基にしたのか、また用途もよく分かっていないようですし、日本で最初に造られ韓国にも分布しています。形、大きさ、材質、色合い等様々なものがあり、ぐい呑と価格的にも同じ程度なのでぐい呑よりも面白いコレクションができると思いつつも残り時間がなく、ごみの集積として処理されても困るし・・たぐい呑と違い実用性が無いのが残念ですが・・。

本の紹介

「福音の実り 互いに大切にしようこと」

～ 本田哲郎対談集 ～ 浜矩子・宮台真司・山口里子・M・マタタ
オリエンズ宗教研究所 1,500円

書名と出版社だけを見るとキリスト教の悪臭が鼻につく本のようにありながら、敬虔なキリスト教の人達には受け入れられにくい内容かもしれません。本田神父が釜ヶ崎で生活する中で頭の中から腹の底に落ち込んだものを軸にそれぞれの専門分野で辛辣な発言をされてきている方々と対談されています。綺麗ごとの世界の中で物事を考えている人達にとっては耳障りな発言ばかりと言えます。しかしどろどろした現場で右往左往している者にとっては共感できますし、そうでもなくても社会の様々な問題を感じている人達にとっては刺激を受ける対談集と言えます。

対談者は、辛辣なアホノミクスと経済政策を批判する経済学者の浜矩子先生、様々な分野で活動される社会学者の宮台真司先生、聖書学・フェミニスト神学の山口里子先生そしてコンゴ出身でカトリックの修道会である淳心会のM・マタタ神父(前オリエンズ宗教研究所所長)です。

本田神父は、釜ヶ崎という底辺に沈まざるを得なかった人達と接したことを契機として、生活の場を共にし、これまでの生き方・考え方や研究の視点を最底辺から見直しをされています。

この本の中で関心を持った言葉を繋ぎ合せてみると、アガペーは「愛」と訳したのが間違いで「大切にすること」と訳すべきである。そうした思いを持って共感できれば、はらわたが突き動かされ、損得勘定を前提とした自発性からではなく、利他的な内発性を基とした行動が起こってくる。

当然それらをまとめ上げて効果的な戦いにするには共通の「怒り」が必要である。怒りは活動の求心力として欠くことはできない。ただこうした低みから見る見方も単なる切り口の一つではないことはしっかり認識しておく必要があるとなりました。唯一の財産であるバックを盗まれた時の釜ヶ崎住人の言葉は「まあ、しゃないわ」といってあきらめる。これが釜ヶ崎流の「救し」です。こうしたところに「私が、わざわざ十字架を掲げて、「救しあいましょう」なんて言う必要があるのかということですね。」とされています。

言 葉

浜までは海女も蓑着る時雨かな 滝 瓢水

浜へ行けば全身水にぬれる海女でさえ、浜までは時雨を嫌って蓑を着る。そのやさしい心情こそ「空」の心である、というのである。無常で、空しくはかないこの身だからこそ、大切に愛^{いとあ}しんで生きていかねばならない。「空」で「非有」だからこそ、いっそう「仮有^{けう}」の身が愛^{いとあ}しいのである。一度「否定」して、その否定が「肯定」に転ずるところに、本当の“あるがまま”なる「真如」が見える。これが大乘で「空」といわれるものの真相である。

「般若心経」を解く 禅とキリスト教の対話 P 33

秋月龍珉・八木誠一 講談社

発 行 所

医事業務支援センター・小松社会保険労務士事務所
フィリピン人労働者を支援する会

〒734-0045 広島市南区西本浦町 14-11-511

携帯 090-7590-0215 Tel 082-285-9039

e-mail k.komatsu@do.enjoy.ne.jp <http://srk2002.com/>

平成28年 11月 1日 発行